

「小さな親切」運動鹿児島県本部賞

支えてくれる存在

出水学園出水中央高等学校 一年

築地 佐江



私は吹奏楽部に所属しています。中学校とは打って変わって、毎日ハードな練習が続き、何度も挫けそうになります。そんな時にいつも支えてくれるのは家族です。

父は毎日、バス停まで朝夕送り迎えをしてくれます。私が疲れて帰ると、冷蔵庫にゼリーや私の好きな食べ物が常備されています。私は自分のことではいっぱいなのに、父は仕事をしながら、私のことを常に考えてくれています。母は、毎日お弁当を作ってくれます。体調を崩しやすいのに、私が味に飽きないように工夫もしてくれます。兄は、私の話をよく聞いてくれます。部活動で大変だったこと、嬉しかったこと、そして部活動以外のことでも相槌を打って聞いてくれます。

家族のみんなが「やりたいことをやればいいよ。やりたいことがあるなら協力できるから。」と私を否定することなく、応援の言葉をかけてくれます。そんな家族の温かさを感じる度にとっても幸せな気持ちになります。

私は毎日いろんな人に支えられて生きています。だから、この道を選んだことを後悔することなく、頑張り続けられる元気が湧いてきます。支えてくれる人がいることは絶対に当たり前のことではないです。いつも支えてくれる家族への恩返しは、私がつと頑張ることだと思います。早く演奏会やコンクールで私が成長している姿を見てほしいです。

新たな気付き

出水学園出水中央高等学校 二年

加塩 瑛理

私は実家から三時間ほどの所で、寮生活をしながら高校に通っています。寮で三十人の人たちと共に一年間生活してきた私は、先日初めてコロナウイルスに感染しました。その日は倦怠感がひどく、体もきつかったため、先生に病院に連れて行っていただき、検査の結果陽性が判明し、急遽帰省することになりました。

帰省は、親の時間もお金も奪ってしまうため、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいでした。介護系の仕事をしている母は、仕事を休まなくてはならなくなり、予想はしていましたが辛く感じました。帰省してからの三日間は、ご飯も喉を通らず、話すことも寝ることもできず、ただ苦しい状態が続きました。妹二人の面倒も見ながら、私の看病に時間を沢山割ってくれた母に、ありがとうと思う一方申し訳なく思いました。

山を越えると少しずつ熱が下がり、体調も楽になりました。現在は帰寮し、すっかり回復しましたが、コロナの後遺症で匂いがしなかったり、倦怠感が続いたりしています。そんな私を心配する母は、三日に一度のペースでLINEをくれます。

コロナウイルスは社会から色々なものを奪っていきました。しかしそれと同時に母の優しさや感謝の気持ちも実感できました。母は偉大なり、その言葉を強く感じています。

ありがとう

加来 白鳴（霧島市）

何年経っても忘れる事が出来ない先生の言葉があります。

現在、四十八歳になる娘が小学校二年生の授業参観の時の事です。娘は当時、始良町立三船小学校（現始良市立三船小学校）に父親の転勤で愛知県から転居し、友達との会話の方言がほとんど理解できずでしたが、それでも楽しく通学していました。

確か一学期の授業参観の日だったと記憶しています。その日愚妻は生憎体調を崩し授業参観に行けなくなりました。それで仕方なく私が行く事になりましたが、父親は私一人でした。

授業参観の初めに前日行った採点済のテスト用紙が子供ではなくそれぞれの親に渡されました。それを見て全員驚き、さわついています。子供全員の点数が悪かったのです。その時、担任の岡田茂吉先生が「子供を叱らないで下さい。私の教え方が悪かったのです。」と言われ頭を下げられました。

娘が過日、「岡田先生が大好きだよ」と言っていた事が納得出来ました。

謙虚で自分に厳しい先生に教えて頂いた娘は二児の母として頑張っています。

岡田茂吉先生本当にありがとうございました。

ありがとう
ございました



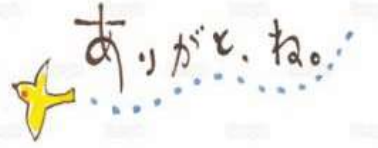
優秀賞

部員に伝えたい「ありがとう」

鹿児島実業高等学校 二年

伊藤 優那

私は軟式野球部のマネージャーをしています。軽い気持ちで入った部活だったのですが、一年生で全国大会出場、そして国体優勝という結果を先輩方が成し遂げ、こんな気持ちで部活を続けてはいけなさと痛感しました。ですが三年生が引退した後、秋の県大会は決勝で敗れてしまい、入部して初めて「敗北」の辛さも実感しました。それから私の部活に対する思いは高まり、部員と同じ気持ちで練習に取り組めるようになりました。今となっては部員が頑張っている姿を見ると元気が出て、勇気も貰えることができます。また、笑顔を見ると私も嬉しくなり、辛い表情を見ると悲しくなります。部員を心から支えられるマネージャーになりたいです。そして、私に野球と部活に対する思いを教えてくれた先輩方と部員に感謝の気持ちを伝えたいです。



厳しさの裏側には

鹿児島実業高等学校 二年

迫田 みなみ

「もつと高い点数取れたんじゃないの」

これは私が毎回テストが返却された際に父に言われる言葉だ。この言葉を言われるたびに悔しい気持ちになるが「次こそは絶対に見返してやろう」と心の中で決心するのだ。

中学受験をすることを決めた小学六年生の頃も、英語検定を受けたときも、私立の中学でそのまま高校に上がらず自分の実力を試したくて決めた高校受験の際も、全て父に認めて欲しくて頑張ってきた。

だから今、自分が頑張っているのは父のおかげだ。いつも反抗をしようとしてしまうけれど、ここまで成績を上げ続けるきっかけを作ってくれてありがとう。いつも厳しく優しく育ててくれる自慢の私のたった一人のお父さんでいてくれてありがとう。



父に言えずにいたこと

鹿児島実業高等学校 二年

田原 美姫

五十歳にもなつて、下品なことを言ったり、気に入らないことがあるとすぐ怒る私の父は、子どもっぽい。

私が学校や進路について話すときも父は、聞いているようで聞いていない。私は、そのような父に話しかけられて無視したり、きつい言葉を投げかけてしまう。

でも、本当は、知っているんだ。父は、親に頼らず高校に行くためにバイトしたり、送迎なんてしてもらったことがないこと。なのに、私のために朝早く、仕事が始まるまで時間があるのにバス停まで送ってくれたり、オープンキャンパスで鹿児島から福岡の北九州まで往復車で運転してくれた。

「心からありがとう。いつも陰ながら家族を支えてくれてありがとう。おもしろいことを言って笑わせてくれてありがとう。これからも、けんかしながら共に成長していこう。お父さん、私はあなたの娘に産まれてこれて良かった。」



いつか言葉で伝えたい

鹿児島実業高等学校 二年

米良 柝音

私は、高校から地元を出て、その上一人暮らしをしています。地元の公立高校に行つてほしい親の気持ちを押し切り、目が届かず、お金もかかるような場所に進路先を決めました。それなのに両親は私が目標を達成するためならお金はいくらでも出すし、生きたいところに行かせてあげると、そういう事では支えられないからと、言ってくれました。

今は面と向かつて感謝を伝えることは恥ずかしいですが、両親の期待に応えることで自分なりに感謝を伝えていきたいと思えます。

自分がお金を稼ぐことの大変さや、自分を信じて尽くしてくれることの優しさを実感するようになったら、両親に改めて素直に言葉で、「ありがとう。」と伝えられたらいいなと思います。両親には本当に感謝しています。いつか恩返しをしたいです。

お父さん、お母さんいつも本当にありがとう。



母に感謝を伝えたい

出水学園出水中央高等学校 二年

立山 真麻

私は日々沢山の人に支えられて生きている。その中で私が一番感謝したいのは母だ。

ある日、私はインフルエンザに罹ってしまった。熱が下がらず、食欲も湧かない中、母がお粥を作って部屋まで持ってきてくれた。「食べないと元気がならないよ」と無理矢理食べさせようとしたので、私は思わず、「いらないうって！」と声を上げてしまった。

母の行為に腹を立て、イライラしながら布団に入り目を閉じると、母はただ私に早く治ってほしかっただけ、そして私のことが心配で何かしていないと落ち着かなかったのではないかと、無意識に母の気持ちを考えていた。そして申し訳ないという感情が押し寄せてきた。

思えば私は母の親切を沢山受けている。どんなに忙しくても、私の大好物の入ったお弁当を毎日作ってくれるし、悩んでいる時は、時間がかかっても悩みを聞いて一緒に考えてくれる。自分だつて疲れているのに「おかえり」と温かく迎えてくれる。挙げ始めるときりがないが、私は母に沢山の愛情を込められ、大切に育てられてきたのだ。

そこで思った。私は一体母に対して何ができているのだろうか。日々の生活を思い返して、自分の無力さを痛感した。母の存在、それは私にとつてとても感謝するべきことなのである。「ごめんね」と「ありがとう」を伝えたい、そう思つて母のいる台所へ向かった。

文通で心 元気！

一 般

仲山 幸代 (始良市)

恵まれているけれどちょっと刺激のない日々。コロナ禍前はそれでも旅行に出かけていたので、それなりにメリハリのついた生活でした。コロナ禍でどこにも出かけられなくなって毎日うつうつとした日々。

そんな時、新聞投稿が縁で知り合った二人の方(鳥取と千葉)と文通を始めました。お顔はもちろん知りません。ただ何回かやり取りをしているとその方の人となりは伝わります。お二人とも絵が好きなので、美しい絵はがきでお便りが届きます。お便りが届くとまずその絵に見入ります。名画であったり、その地方の美しい風景だったりします。

私もその方にあつた絵はがきを選んで、日常のことを書いています。送った絵はがきを喜んでもらうととても嬉しいです。

お便りが届くのは心弾んで嬉しいものですが、その方の顔を勝手に想像して(笑)自分で描くのも楽しいものです。絵はがきや、切手をどれにしようかなと考えるのも私にとつて楽しいひとときです。

メールと違い届くのに時間がかかり「待つ時間」があるのも気に入っています。

楽しく文通していることが私の心のワクチンかな？



大切な人へ感謝

一 般

牧 さくら(鹿児島市)

私は今年の三月に高校を卒業し、四月から就職しました。

私は今までアルバイトなどの経験もなく、接客業についての知識も他の子よりも劣っていたので、これからやっていけるのか、職場の方々と仲良くなれるのか不安ばかりが募っていました。ですが、その不安を感じさせないくらい同期はとても良い子達ばかりでした。

四月には正式に売場も決まり、覚えることも増え、初めてのことだらけだったので不安が更に高まりましたが、売場の先輩方は皆さんとても優しく、的確に商品や仕事内容を教えてくださいます。お陰様で、今は以前よりも接客がかなり上達し、「ありがとう」と笑顔で帰られるお客様を見る機会も増えてきました。接客の楽しさも実感します。

こんなに私が頑張れるのは同期や売場の方々、いつもそばで支えてくれる家族がいたからです。心から感謝しています。これから自分が成長していき、周りの方々に恩返しができるように、精一杯頑張っていきたいと思います。



瑞々しい心の君たちへ

一 般

右田 文子(鹿児島市)

今から四十五年程昔のことです。

生後間もない娘を抱いて家族四人で鹿児島市北部の団地に転居しました。

ある日、街に出掛けて帰りのバスに乗りました。途中、下校する小学校低学年の可愛い生徒が数人乗車しました。団地に入るとそれぞれが降車の際に運転手さんに「ありがとうございます」と元氣にお礼を伝えていなのです。私は感動して清々しい思いで心が満たされました。車の運転の出来ない私は日頃路線バスにお世話になっているのに、いつも無言で降車していたのです。子供たちの行動に心動かされた私は、彼たちをお手本にしようと思いました。

小声で始めた「ありがとうございます」。いつしか自然に伝えられるようになり、時の経過と年令を重ねながら言葉に添える思いが折々に変化しました。

七十代半ばになった現在、路線バスや運転手さんの有り難さを楽しみ感じています。あの時の小学生たちは五十代半ばになり社会で活躍されていることでしょう。

私に小さな勇気を教えてくれた君たちへ

心からありがとう

